– 実例から学ぶ感染対策 –

新型コロナウイルス感染症
職場でのクラスター事例

この事例集は、職場での実際のクラスター（集団感染）事例を学ぶことにより、類似の場面において先手を打って感染対策を講じることを目的としています。

感染リスクが高まる状況は、「3 密」として知られる「密閉・密集・密接」です。職場内で、会話をする場面、食事をする場面、人が集まる場面を特定して重点的に対策することが重要です。

休憩時などは、意外な場所で休息をとっている人がいるでしょう。非正規従業員の方や、清掃や運転といった業務に従事している方などが、換気の悪い場所で休憩していることもあります。

職場内だけでなく、仕事に関連するさまざまな場所で、感染対策に取り組むようにしましょう。

なお、これらの事例はワクチン接種の開始以前に発生したものです。

case 01　同じオフィスで 5 名が感染

case 02　同じオフィスで 8 名が感染

case 03　オフィスの 3 フロアに広がった感染

case 04　労務宿舎で広がった感染

case 05　コールセンターで 86 名が感染

case 06　イベント会場でスタッフから来場者へ感染

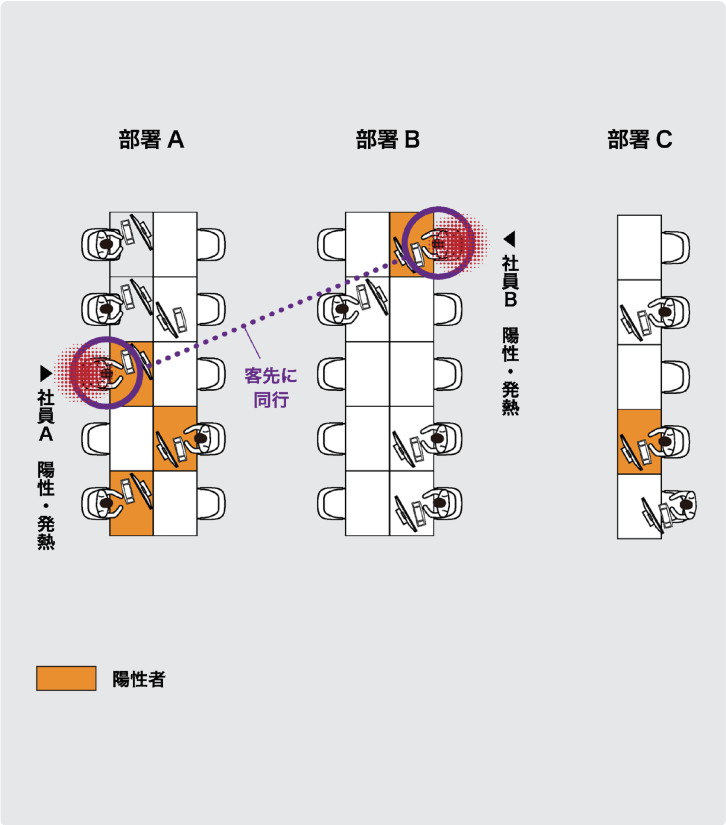
case 07　工場の休憩室で作業員 6 名が感染

case 08　駅舎内で駅員 12 名が感染

case 09　職員 8 名が感染

参考　日本の職場における新型コロナウイルスの感染発生状況

case 01　同じオフィスで 5 名が感染



事例概要

社員 A は 2 日前から発熱していたが、3 日目の朝に熱が下がったため出勤。後日、体調不良で医療機関を受診したところ、陽性が確認された。

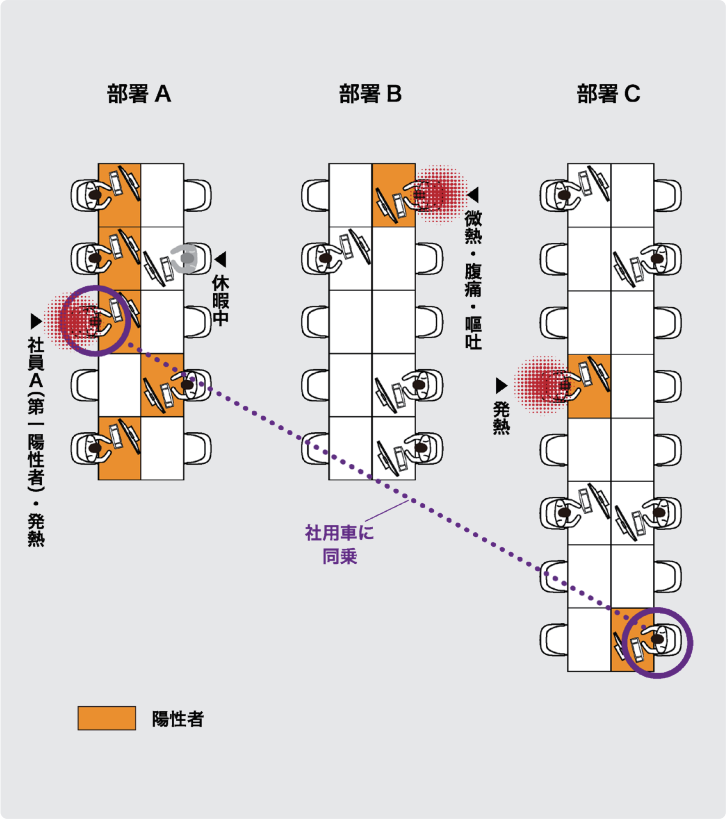
社員 A が出勤した日に客先に同行した社員 B が、数日後に発症し、陽性が確認。

ほかにもオフィス内で特に接点のなかった社員 1 名が陽性となった。保健所の指示により全員検査を実施し、さらに 2 名の陽性が確認された。最終的に 14 日間の休業となった。

感染拡大要因

- □ 解熱直後に出社するなど、感染防止の基本行動が守られていない。
- □ 開放可能な窓がなく、換気が不十分。
- □ デスクが小さく、社員同士の距離が 1 m 程度で密な状態。

case 02　同じオフィスで 8 名が感染



事例概要

社員 A が発熱していたが、その数日前から出勤。後日、体調不良で医療機関を受診したところ、陽性が確認された。

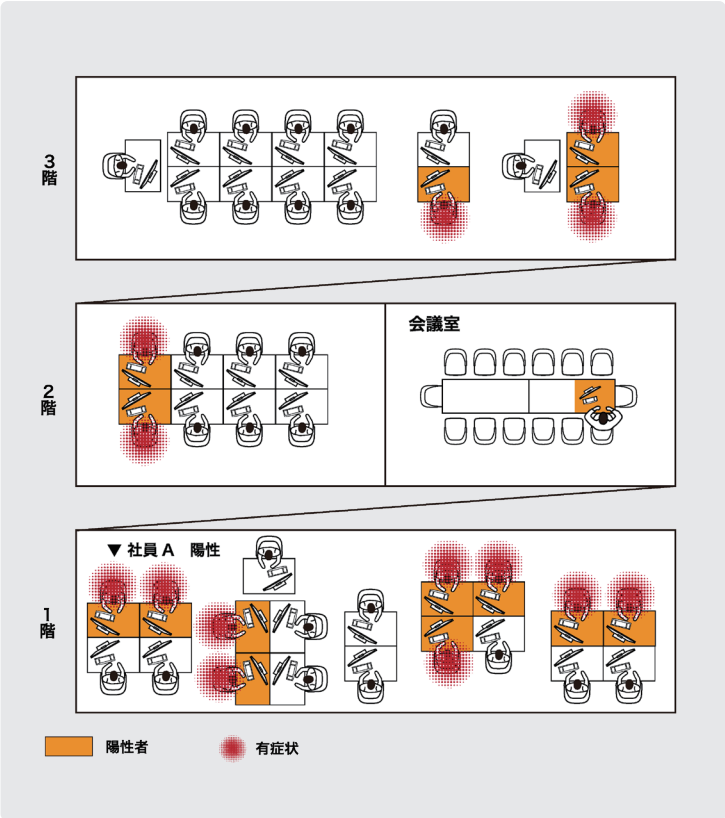
オフィス内では、デスク周辺の 2 名が発症し、陽性と確認された。保健所の指示により全員検査をしたところ、社員 A のデスク周辺の複数社員が感染。

社員 A とともに社用車に同乗して客先を往復した 1 名も、オフィス内でのデスクは離れていたが感染した。

感染拡大要因

- □ オフィス内の換気は十分に行われず、朝の一度のみ。
- □ ほぼ毎日、全社員がオフィスに出社。
- □ デスク周りにパーテーションの設置がない。
- □ 複数社員が社用車に同乗して外出する。
- □ デスクで昼食をとる社員がいる。

case 03 オフィスの３フロアに広がった感染



事例概要

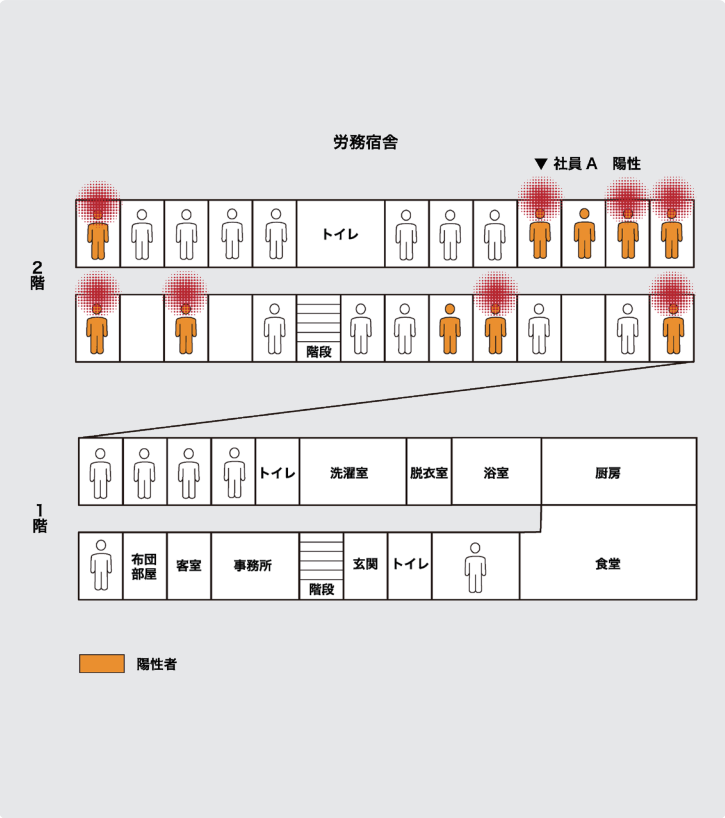
社員 A が県外の仕事関係者と昼食をとった際に感染。発症後も出勤し、周囲の社員と会話や会議をした（マスク無し）。

オフィス内の異なるフロアにも陽性者が出た。社員 A の所属部署があり、換気が不十分だった 1 階では、9 名の陽性者が確認された。陽性者は 2 階に 3 名、3 階に 3 名に広がったほか、その家族 4 名の家庭内感染を含めて合計 19 名となった。

感染拡大要因

- □ 発症後も会話をする（マスク無し）。
- □ 症状が出ているのに出勤するなど、感染防止の基本行動が守られていない。
- □ 窓を閉め切った環境で、換気が不十分。
- □ 二次感染の予防のための介入が遅れる。

case 04 労務宿舎で広がった感染



事例概要

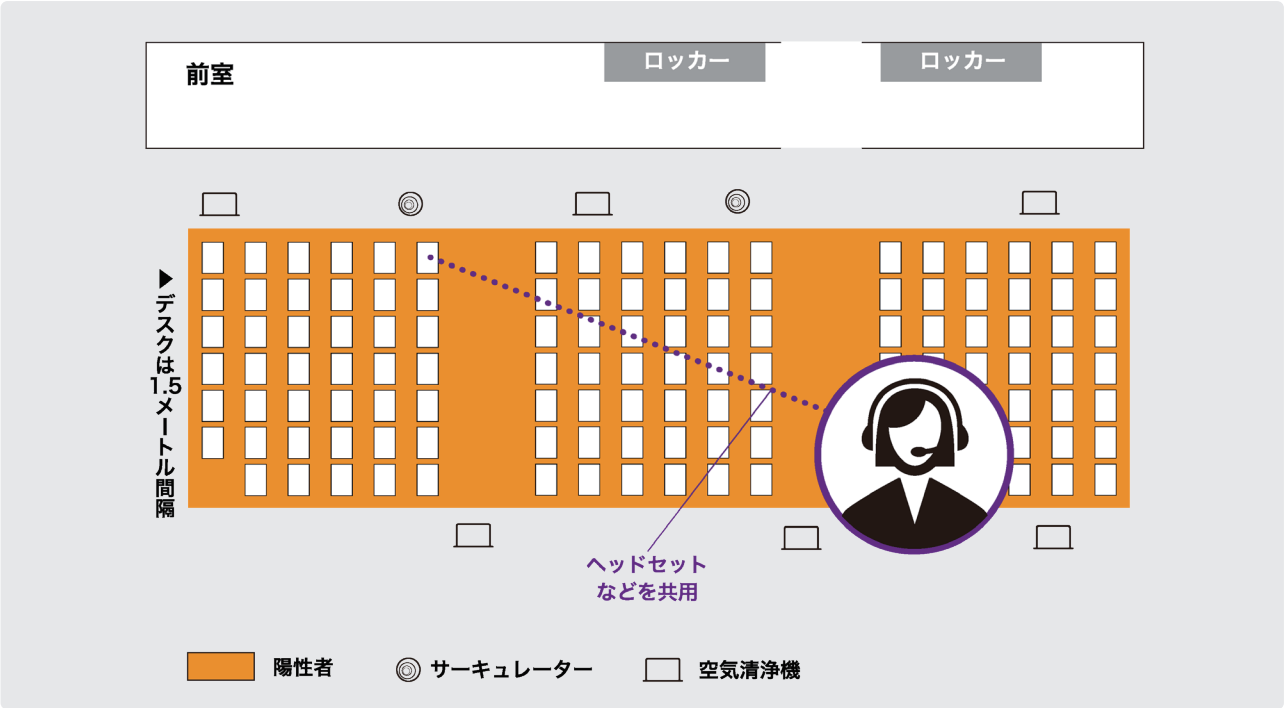
複数の会社の社員が工事現場での仕事のため共同生活を送る宿舎に滞在していた、県外からの社員 A が、自宅に戻った後、陽性だったことが確認された。

保健所が宿舎の滞在者に一斉検査をすると、複数名の陽性が確認された。食堂や浴室など共有スペースがあったが、階ごとに異なる時間帯で利用されていたこともあり、感染は 2 階の滞在者に限られた。

感染拡大要因

- □ 複数の会社の従業員が出入りし、共同で生活する。
- □ 全員が食堂や浴室など共有スペースを利用する。
- □ 症状が出ても共同生活を続ける。
- □ 日々の体調確認をしていない。

case 05 コールセンターで 86 名が感染



事例概要

コールセンターは比較的密な環境で大人数が声を出して勤務する。同社のオフィスは窓が開放できず、1.5m 間隔で 125 のデスクが並んでいた。スタッフの座席は日替わりで変わるようになっており、各デスクは正面と左右を高さ 60cm のパーテーションで区切って配置されていたが、左右や斜め前の人とは対面で会話ができる状態だった。換気は、外調機による中央管理で 9 時から 19 時まで運転していたが、換気が止まった 19 時以降も残業していた人もいた。

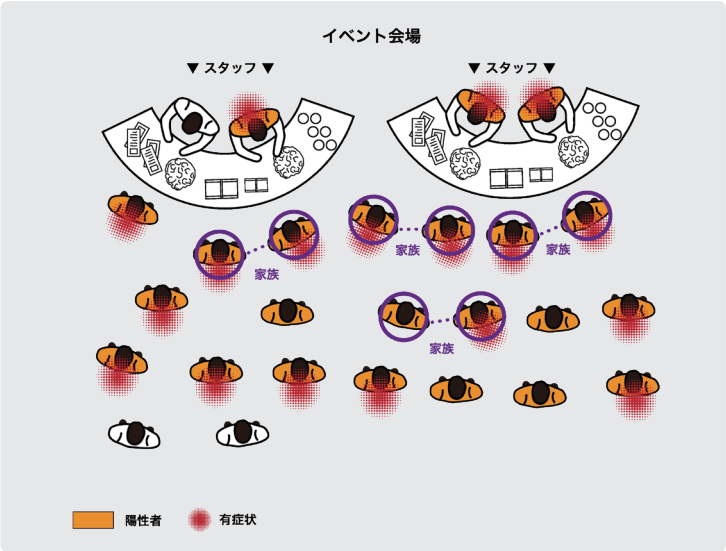
オペレーターが使用するマイク付きのヘッドセットは共有され、清掃や消毒などは個人に任されていた。休憩室では黙食が推奨されていたが、座席は会話が可能な配置となっていた。オフィスの入り口には消毒剤が設置されていたが、出入りする全員に手指消毒が徹底されてはいなかった。体温測定による体調管理も行われていたが、記録はつけられていなかった。また、オペレーターが使用するマイク付きのヘッドセットは共有されており、清掃や消毒は個人に任されていた。

勤務中は全員がマスクをつけていたが、感染者の発生が継続したため、全員が濃厚接触者としての対応となった。調査対象の約 1 カ月間に勤務していたスタッフ 260 名を検査したところ、86 名の陽性が確認された。その約 7 割はオペレーターだった。検査時の有症状者は 77 名で、症状が出ても勤務を続けた人が 8 名いた。感染者が 4 週間にわたって発生するクラスターとなった。

感染拡大要因

- ☐ 比較的密な空間で大人数が長時間声を出す業務を行う。
- ☐ 業務で使用する物品をスタッフが共用し、清掃や消毒は個人に任されている。
- ☐ オフィス内に開放可能な窓がなく、換気が不十分。
- ☐ 体温の記録など、有症状者を把握するための健康管理が徹底されていない。
- ☐ オフィス内での手指消毒が徹底されていない。
- ☐ 症状があっても出社するなど、感染防止の基本行動が守られていない。
- ☐ 二次感染の予防のための介入が遅れる。

case 06 イベント会場でスタッフから来場者へ感染



事例概要

屋内物販イベントのスタッフと来場者の感染が確認された。感染した来場者は、家族でイベント会場を訪れていた。別の家族も陽性が確認された。保健所が来場者名簿をもとに検査を実施したところ、ほかにも複数の陽性者が確認され、同日に複数のイベント会場を回っていたことが判明した。また、陽性だったスタッフは、県外から来ていた。

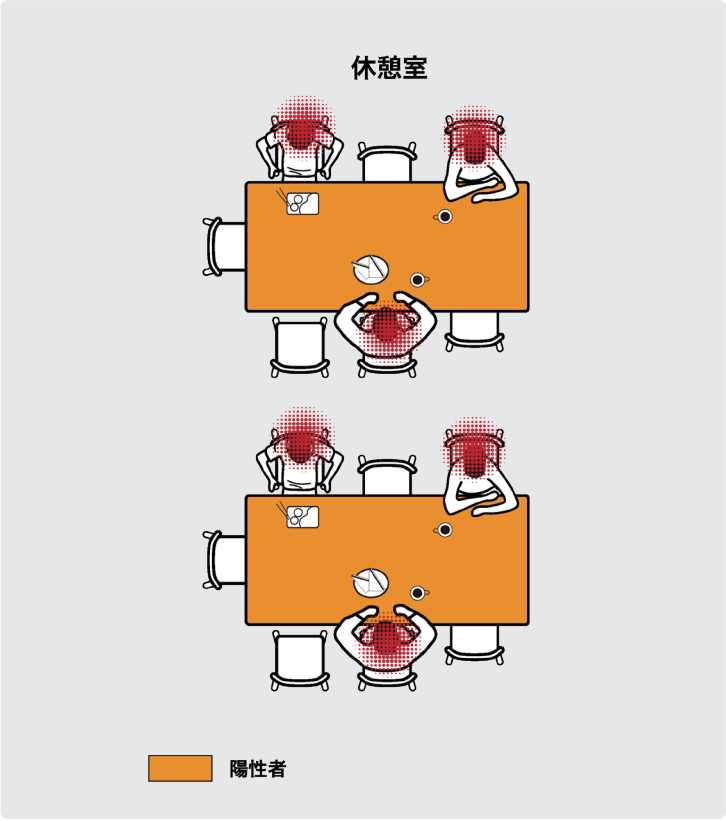
イベント会場は換気が悪く、多くの来場者が集まり、密の状態にあった。来場者には高齢者も多く、複数回来場する人もいた。スタッフと来場者が話をしながら販売するイベントだったため、感染者の増加につながった。

イベント会場に感染源が推定できた際には、参加者名簿の入手や、公表の検討も有効になる。

感染拡大要因

- □ 換気が不十分の環境に、大人数が集まって密な状態。
- □ 参加者には高齢者が多い。
- □ 対面で会話をする機会が多い。
- □ 複数回会場を訪れる人がいる。
- □ 流行地域から参加するスタッフが感染している。

case 07 工場の休憩室で作業員 6 名が感染



事例概要

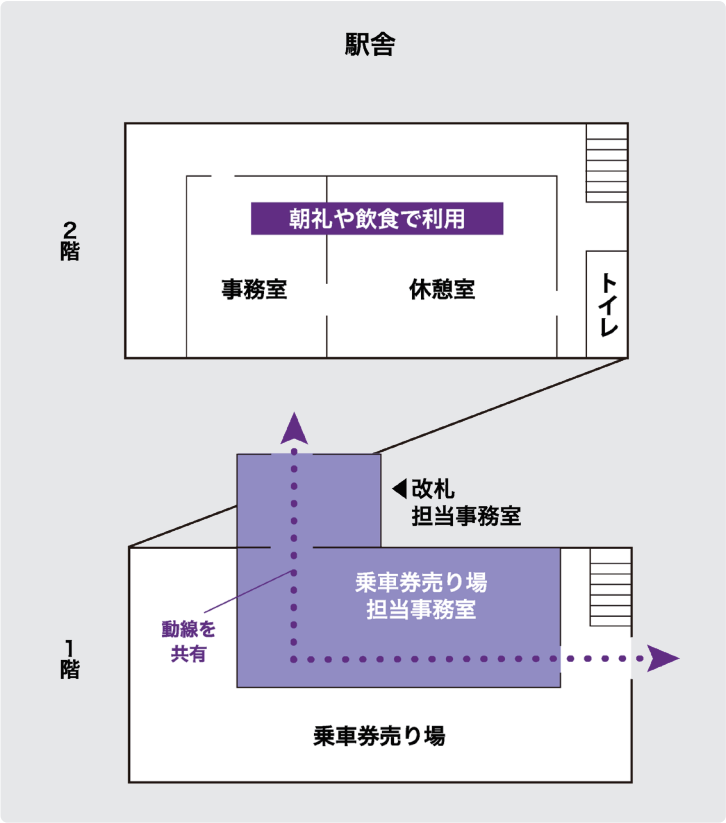
工場の作業員に陽性が確認された。業務中はマスクや手袋を着用し、感染防止対策を行っていたが、休憩時間を狭い部屋で食事や会話をして過ごしていた。この部屋には連日多くの作業員が集まり、マスクを外した状態で 1 時間ほど滞在していた。

感染した作業員の同僚 20 名を濃厚接触者として検査したところ、15 名は陰性だったものの、5 名の陽性が確認され、合計 6 名のクラスターとなった。

感染拡大要因

- □ 狭い部屋で大人数が 1 時間ほど過ごす。
- □ マスクを外して飲食や会話をする。

case 08 駅舎内で駅員 12 名が感染



事例概要

同じ駅舎で働く駅員 12 名が半月の間に次々と感染した。感染した駅員は 20 ～ 50 代で、改札や駅舎内の乗車券売り場など異なる部門で働いていた。

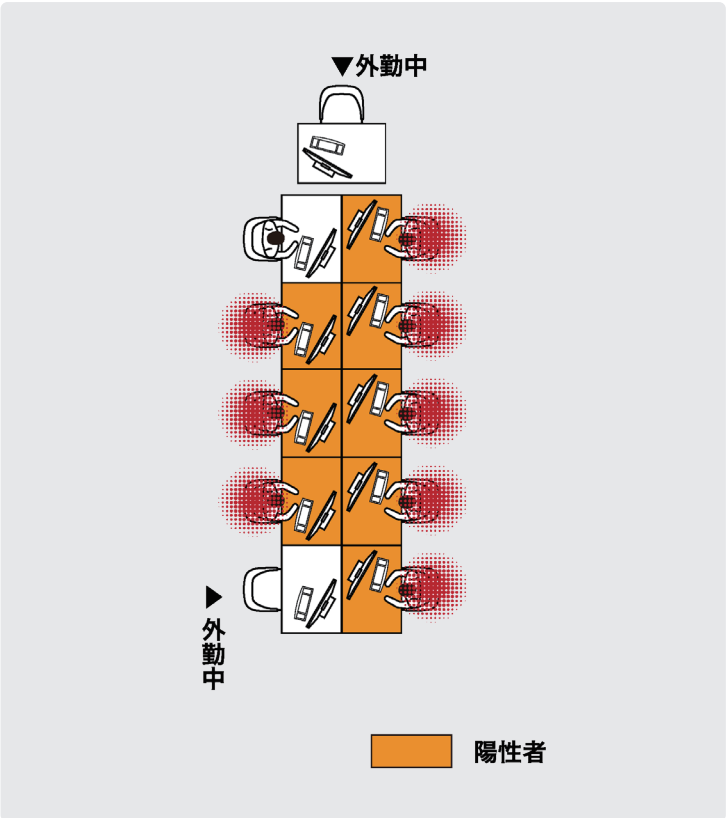
毎朝 40 名ほどの駅員が 2 つの部屋で点呼と称する朝礼を行っていたことが判明した。陽性者の 12 名も出席していた。また、共同の休憩室で飲食していた。

勤務する部門が離れていたため、プライベートでの感染（会食など）や、無症状者の介在による感染の可能性もあり、感染経路は特定しにくかった。12 名の濃厚接触者は全員陰性だった。

感染拡大要因

- □ 共同の休憩室でマスクを外して飲食する。
- □ 毎日、多人数が 2 部屋で朝礼をする。
- □ 無症状者が介在した可能性がある。

case 09 職員 8 名が感染



事例概要

1 つの部門に勤務する職員 11 名のうち、8 名の陽性が確認された。

職員は基本的に外回り勤務だったが、それ以外の時間を狭い事務所でともに過ごしていた。部屋の換気は行われていた。また、全員がマスクはしていたが、ウレタンマスクを利用する人もいた。マスクから鼻が出ている人や、あごまで下げて仕事をしている人もおり、適切なマスク着用が徹底されていなかった。

感染拡大要因

- □ ウレタンマスクを利用する人が含まれ、全員が不織布マスクを利用していない。
- □ 鼻出しマスクやあごマスクなど、適切なマスクの着用が徹底されていない。
- □ デスクの配置が密な状態にある。

参考　日本の職場における新型コロナウイルスの感染発生状況

図 1 では、職場でのクラスターの件数で職場での発生の件数と全体の割合を示した。職場は、感染の拡大とともに割合が増加している傾向が見られた。一方で、医療機関はワクチン接種により減少したことが傾向として見える。

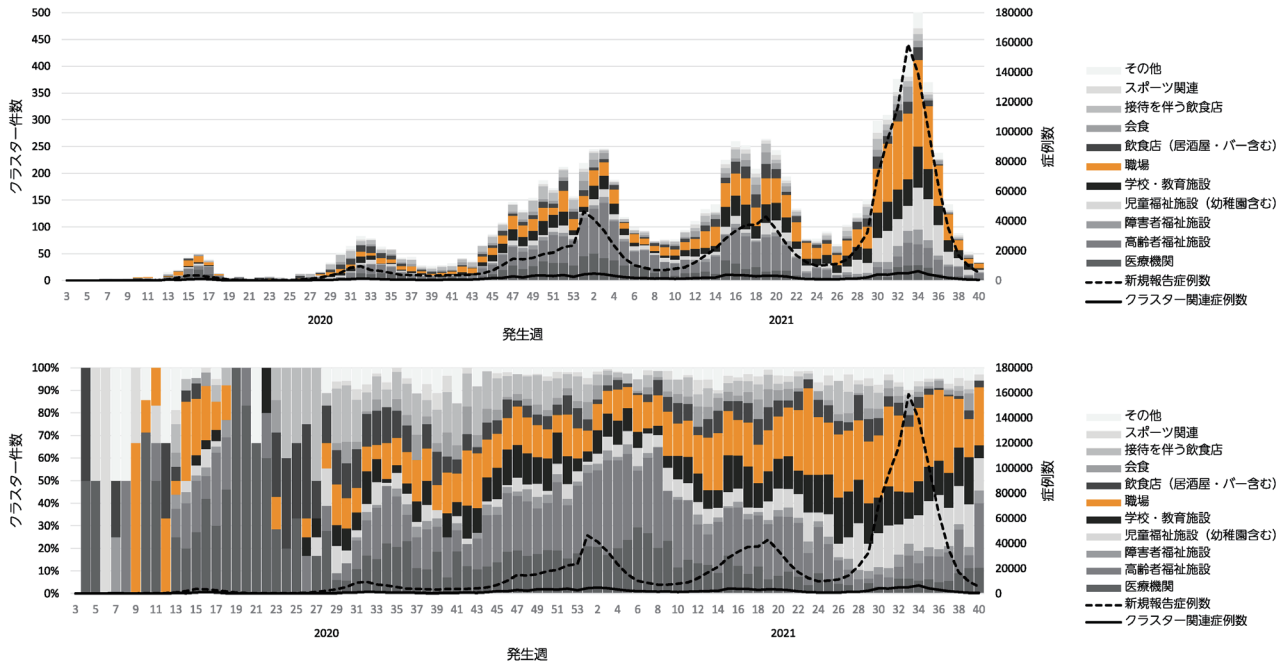


図 1　疫学週別クラスター件数（2020 年第 3 週～ 2021 年第 40 週）

図 2 は、職場だけのクラスター件数を示した。新規感染者数と同様の傾向を示している。

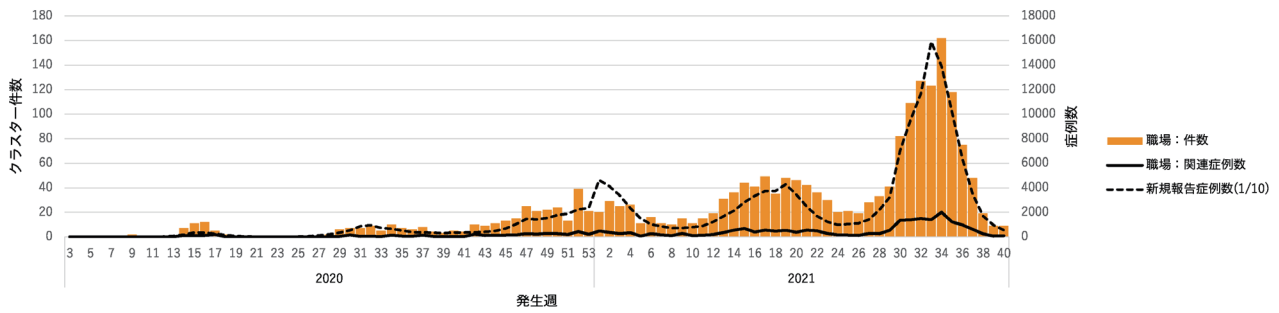


図 2　クラスター分類別　職場

図 3 は、波ごとのクラスターの発生場所の割合を示した。第 5 波においては職場の割合が他の場面と比較して多い傾向が見られた。

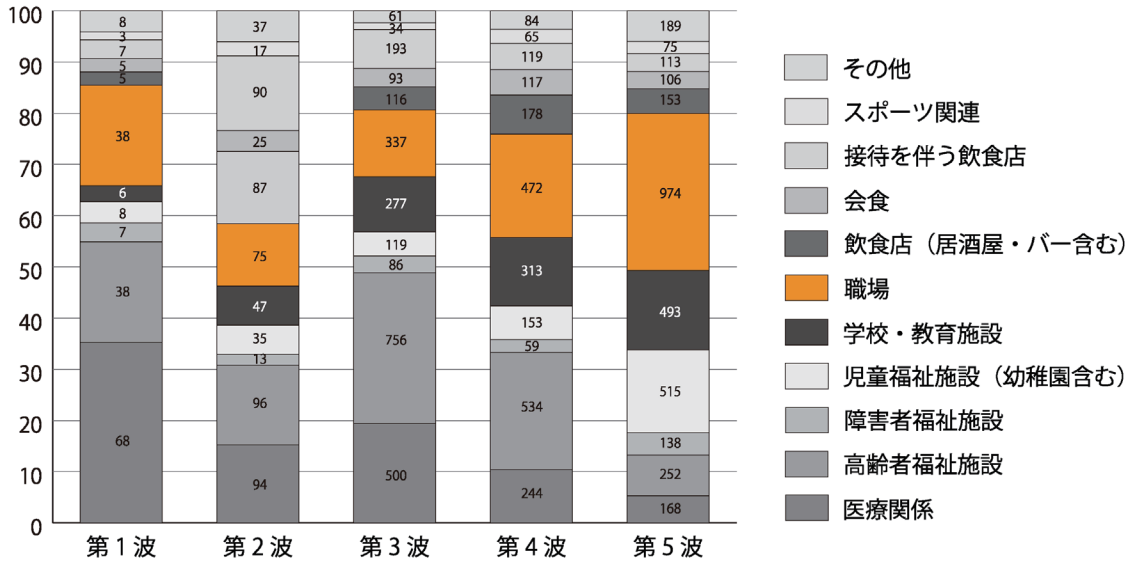


図 3　波別クラスター内訳